

政 務 活 動 費 成 果 報 告 書

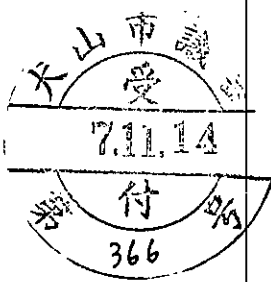
令和 7 年 11 月 14 日

犬 山 市 議 会
議長 大 沢 秀 教 様

議員名 小 川 清 美

下記のとおり、先進地視察の成果を報告いたします。

(1) 年 月 日	令和7年11月10日(月) ～ 令和7年11月11日(火) (1 泊 2 日)
(2) 場 所	(1日目) 東京都稲城市 (2日目) 東京都調布市
(3) 形 態	創大会先進地視察研修
(4) 内 容	▼東京都稲城市 (於；稲城市役所) 内容； 介護支援ボランティアについて 対応； 福祉部高齢福祉課 今川係長 他1 (1) 概況 人口は当市より約23000人多い約94000人で、年々微増している。市域面積はおよそ18km² (東西、南北とも約5.3km)。日常生活圏域は4か所となっている。高齢者人口は約21000人 (高齢化率22.1%) で、当市の高齢者人口21067人 (高齢化率29.66%) とほぼ同程度。また、要介護認定者数は当市3620人に対し、稲城市は約3500人。 なお、稲城市の特産は梨とぶどうで、特に梨は高級品として取り扱われている。また、機動戦士ガンダムのメカニックデザイナー大河原邦男氏の出身地であることから、市のイメージキャラクターを手がけていただくなど、市とコラボ展開している。 (2) レクチャー ・当初 (平成17年度) は、介護支援ボランティアに対して、介護保険料を引き下げることとしていたが、国 (厚労省) から異論があったため、見直すこととなった。 ・現副市長が、現役時代 (当時) にポイント制を考案し、厚労省へ直談判した結果認められることとなった。 ・また、この方式は全国に推奨すべき手法として、厚労省から通知が出されることとなった。 この制度の根拠となる通知→介護保険最新情報 Vo1.12 「介護保険制度を活用したボランティア活動の支援」



- ・制度の概要；ボランティア活動に対し、ポイントを付与し、ポイントに応じて年間最大5,000円を市から支給する。交付金として受け取るか否かも、すべて本人の意思に依ることとしている。
- ・ボランティア活動の登録は65歳以上の方
- ・ボランティアの受け入れ機関に対し、実施報告などは求めているため、無駄な労力は無い。
- ・受け入れ事業者とボランティア希望者のマッチングがこの制度の肝
- ・スタンプ手帳が紙ベースのアナログ式が良い結果を生み出している。

手帳を仲間同士で見せ合ったりして、楽しむ方々もいる。

- ・ボランティアの登録や評価ポイントの管理は社会福祉協議会に委託している。
- ・令和6年度の実績

ボランティア登録者数 739名

前年中に10回以上活動を行った者 171人

受け入れ機関数 25団体

ポイント費用 499,000円

事業費総額（社協委託費） 1,018,582円（事務費+ポイント費用）

▼東京都調布市 文化会館 たづくり 施設見学

施設； 調布市役所に隣接する複合施設 12階建て地下2階

(1) 概況

1F～2F ギャラリー、ホール、展示室 等

3F 会議室が主 調布 FM 放送局が設置

4F～6F 市立図書館、外郭団体事務局

7F～12F スタジオ、研修室、学習室 等

12F 大会議室、小会議室、展望ロビー

※平日の昼間にも関わらず結構な方々が利用されており、人口が多い都市というメリットが垣間見えた。

▼東京都調布市 青少年ステーションCAPS

内容； 中高生の居場所づくりについて

対応； 子ども生活部児童青少年課 課長以下5名

（運営主体 NPO法人 ちょうふこどもネット職員含む。）

(1) 市の概況

東京都のほぼ中央に位置する人口 約 240,000 人、市域面積は

21.58 km²の都市。人口は微増中であるが、小学生の数はここ数年減少傾向となっている。

映画産業が市の主要と言える。映画関係の小道具関連、フィルム関連、VXF 関連 等々、東洋のハリウッドと呼ばれているとのこと。

(1) 施設 (CAPS) の概況

R C 構造 4 階建て 賃借料 200万円/月

CAPS=Chofu Active Persons Station

1F 駐車場 2F (未使用)

3F 受付/事務室、会議室、クラウトルーム、音楽/ダンスStudio

4F 屋外スポーツエリア、更衣室、卓球台

(2) レクチャー

- ・当該施設は、中高生のための児童館の位置づけ。小学生も利用してよいが利用時間(17:00まで)の制限がある。中高生は20時まで

- ・施設は公設民営の形となる。運営は、NPO法人 ちょうふこどもネット

- ・利用は原則、調布市に在住する中高生を対象としているが、中高生になると交友関係も広がるため、ある程度は寛容している。

- ・課題

- ① 当該施設は市域の西に偏っているため、東にも必要と考えているが厳しい状況にある。

- ② 以前に比べ、ヤンチャな中高生の傾向が変化(集団になるとタガが外れる等)してきており、対応が難しくなっている。

- ③ 職員の給与面での待遇などにより、離職者が多い。

- ・年間利用者等の実績等

昨年度の利用者数 約22,000人 (中高の割合 50%づつ)

年間維持費 約9000万円、このほか修繕費等発生

- ・施設と各中学校との連携は行っているが、高校との連携はあまり無い。

(5) 成果・提言

【稲城市 介護支援ボランティア関係】

○ 介護ボランティアにインセンティブを持たせ、少しでも多くの方々に参画していただく手段として非常に有効であると同時に

成果・提言(続)	に、すでに全国705自治体で実践されていることから、こうした制度の導入はすべきと考えます。また、事業費的にもそれほど要するものではない。 (11月定例議会で、一般質問を予定) 【調布市 中高生の居場所づくり関係】 ○ 中高生の健全育成という観点から、調布市で見学したような施設は、今後需要が求められる可能性がある。 ○ 当市にあっては、児童館(センター)というと、小学生までというイメージが定着しており、中学生の利用はあまり無いのが現状(児童=18歳以下という考え方が浸透していない。) ○ 一方で、施設自体も中高生の居場所としては、充実していない状況にある。 ○ こうした施設の必要性は感じるものの、当市の財政面や市民の関心度からは、難しい状況と考えます。 ○ そこで、現在ある児童センター或いは学習等供用施設を中高生が行きやすい環境や施設内容に変えて、まずは実証実験してはどうかと思います。(現在利用者や地域のコンセンサスが必要)
-----------------	---